

授業科目名	【G】	教育方法・ICT活用論	区 分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2	
	【H】	教育方法・ICT活用論			【H】2		【H】2	
科目区分	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目							
授業形態	対面授業							
担当形態	単 独	【G】	教員の免許状取得のための必修科目					
		【H】	教員の免許状取得のための必修科目					
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の方法及び技術、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法							
サブタイトル	授業を「受ける」から「つくる」へ				担当者	後藤 雅彦		
授業概要	【概要】	<p>【実務(中学校教諭)経験を活かした授業】 中学校における教育経験をもとに、学校現場で求められる基礎的な実践的指導力の育成を図る。</p> <p>【概要】 「教育(の)方法」。例えば、学校で何千時間もすでに受けて来た自らの授業にかかることも「教育(の)方法」の一部である。振り返って、自分の内に「何が教育され、何が身に付いた」だろうか。そこには例えば、「教育をすることはどういうことか」そして、「そのための方法とは何か」を考えてみる貴重な実体験が詰まっている。今度は、児童や生徒としてではなく、教師としてそうした授業を「受ける」側から、「つくる」側に回るのである。この転換から発生することは何かを、その「つくる」側の場面を設定することで、自ら実践し、互いに検討し、「どんな方法や力を用いる」ことで授業がつくれるかを学んでいく。</p>						
	【到達目標】	<p>○授業を「受ける」側から、「つくる」側へ転換する中から、教師としての仕事の意味や責任について再考することができる。</p> <p>○ICTを活用して、効果的な授業の導入方法を身に付けることができる。</p> <p>○授業の指導技術を身に付けていく日常が、即ち教師として「授業に生きる」道程であることに気付き、将来へ向かって教職へ臨む態度を形成することができる。</p>						
履修条件	「教育原理」及び「教職論」を履修済み、もしくは本年度に履修予定の者。							
アクティブラーニングの方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【○】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【○】	グループワーク	【○】	対話・議論型授業	【○】	ロールプレイ
	【○】	プレゼンテーション	【○】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との関連性	社会科・公民科指導法入門(2023年度生までは社会科・公民科指導法Ⅰ)、社会科指導法Ⅰ(2023年度生までは社会科・公民科指導法Ⅲ) 社会科指導法Ⅱ(2023年度生までは社会科・公民科指導法Ⅱ)、公民科指導法(2023年度生までは社会科・公民科指導法Ⅳ) 社会科・地理歴史科指導法入門(2023年度生までは地理歴史科指導法Ⅰ)、地理歴史科指導法(2023年度生までは地理歴史科指導法Ⅱ) 情報科指導法Ⅰ(2023年度生までは情報教育法Ⅰ)、情報科指導法Ⅱ(2023年度生までは情報教育法Ⅱ)							
教科書	特に指定しない。授業の中で参考文献等を適宜紹介する。							
参考書	稲垣忠『教育の方法と技術Ver.2 IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び』北大路書房 樋口直宏/林尚示/牛尾直行『実践に活かす 教育課程論・教育の方法と技術論』学事出版							
評価方法	授業や演習への参加態度(30%)、課題への取組内容(30%)、プレゼン資料(小論文)提出(40%)を総合して評価する。							
フィードバック方法	毎時間の「復習シート」、課題演習へのコメント							
評価基準	授業内容について、よく理解しており、応用力もある者には、その程度に応じて「S」または「A」とする。さらに授業内容の理解の程度に応じて、概ね理解しているを「B」、最低限の基礎力を備えているを「C」とし、以上「S」から「C」までを「合格」とする。 授業内容について、基礎力が不足しているを「D」、基礎力が著しく不足しているを「E」とし、「D」「E」を「不合格」とする。 なお、欠席超過や試験欠席等は「F」とし、「評価不能」とする。							

授業 科目名	【G】	教育方法・ICT活用論	区 分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
	【H】	教育方法・ICT活用論			【H】2		【H】2
授業回数	授業内容						
1	オリエンテーションー「印象に残った授業」を紹介しようー						
	予習： 90分を目途に、「印象に残った授業」の理由を振り返る。			復習： 90分を目途に、「印象に残る」要因を整理する。			
2	めざす授業ー主体的・対話的で深い学びをめざしてー						
	予習： 90分を目途に、参考とすべき学習指導案を調べる。			復習： 90分を目途に、参考とすべき学習指導案を整理する。			
3	めざす授業ー授業方法とそれを支える力を考えるー						
	予習： 90分を目途に、参考とすべき学習指導案の発表準備を完成させる。			復習： 90分を目途に、めざす「授業に生きる」意味を再考する。			
4	授業を支える指導技術ー「読む」ー						
	予習： 90分を目途に、児童生徒の手本になれるか振り返る。			復習： 90分を目途に、「読む」足りない力を身に付ける。			
5	授業を支える指導技術ー「書く」ー						
	予習： 90分を目途に、児童生徒の手本になれるか振り返る。			復習： 90分を目途に、「書く」足りない力を身に付ける。			
6	授業を支える指導技術ー「話す」ー						
	予習： 90分を目途に、聴く人数や話すねらいで何を変えるのか考える。			復習： 90分を目途に、「話す」足りない力を整理する。			
7	授業を支える指導技術ー「話す①」 前半グループー						
	予習： 90分を目途に、「話す」練習をする。			復習： 90分を目途に、「話す」足りない力を身に付ける。			
8	授業を支える指導技術ー「話す②」 後半グループー						
	予習： 90分を目途に、「話す」練習をする。			復習： 90分を目途に、「話す」足りない力を身に付ける。			
9	授業をつくる指導技術ー「示す」 導入構想①ー						
	予習： 90分を目途に、ICT活用授業「導入」を構想する。			復習： 90分を目途に、ICT活用授業「導入」を準備する。			
10	授業をつくる指導技術ー「示す」 画像選定②ー						
	予習： 90分を目途に、ICT活用授業「導入」を準備する。			復習： 90分を目途に、ICT活用授業「導入」を準備する。			
11	授業をつくる指導技術ー「示す①」 前半グループー						
	予習： 90分を目途に、ICT活用授業「導入」を完成させる。			復習： 90分を目途に、授業で何を身に付けるのか振り返る。			
12	授業をつくる指導技術ー「示す②」 後半グループー						
	予習： 90分を目途に、ICT活用授業「導入」を完成させる。			復習： 90分を目途に、授業で何を身に付けるのか振り返る。			
13	「授業に生きる」ー教育方法の何を身に付け、どんな授業をめざすのかー						
	予習： 90分を目途に、プレゼン準備をする。			復習： 90分を目途に、プレゼン準備をする。			
14	まとめー「授業に生きる」私の場合① 前半グループー						
	予習： 90分を目途に、プレゼンを完成させる。			復習： 90分を目途に、どんな教師をめざすのか小論文を練る。			
15	まとめー「授業に生きる」私の場合② 後半グループー						
	予習： 90分を目途に、プレゼンを完成させる。			復習： 90分を目途に、どんな教師をめざすのか小論文を練る。			
その他	全体履修人数に応じ、実演(ロールプレイ等)の時間を確保したいため、必要に応じ多少の内容修正をする場合がある。また、常にポートフォリオ形式で授業資料等を分類整理する。						